

④ 昭和36年7月「県政ニュースNo.34」

【鳥海山麓のジャージー二世】 鳥海山麓の矢島・東由利・鳥海の3か町村に、オーストラリア生まれのジャージー乳牛が導入されてから3年目。いまこれらの地域には理想的な酪農経営が着々と進められています。導入当時は乳量が少ない上に受胎率も低いというので評判の悪かったこれらの牛も、いまでは乳の出もすこぶる良く、また二世も方々の農家で生まれて、すでにこの6月末で牛の数は800頭と導入当初の2倍にも達しています。



これは夏の訪れとともに始まった矢島町町営放牧場のひとこま。広い鳥海山のすそ野には50頭もの子牛たちが元気よくかけまわっています。体の小さいジャージーは、人なつこくてバンビそっくりの可愛らしさ。広い高原に初夏の太陽を浴びて牛を追う牧童の表情も楽しそうです。こうして子牛は秋までには立派に成長して乳を出すようになるのですが、二世の増加とともにすっかり秋田の風土にも馴れてきたジャージーの酪農の将来は非常に明るいものと期待されています。



⑤ 昭和38年11月「県政ニュースNo.52」

【ふるさと散歩…栗駒】 秋田・岩手・宮城の3県にまたがる栗駒山は、乳頭・駒ヶ岳と共に奥羽山脈の主峰のひとつとして知られている。山頂からは岩手山を始め、駒ヶ岳・月山・鳥海の山々が一望にみられる。山麓^{やくないがわ}一帯は豊かなブナの原生林に覆われ、役内川・皆瀬川流域には豊富な温泉が湧き出て、秋ノ宮・小安の温泉郷をつくっている。

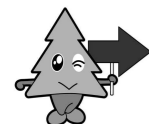
初夏の若葉、秋の紅葉の美しさで知られる小安峡を訪れる行楽客は後を絶たない。また、この下流には、わが国2番目のロックフィルダムとして今年の7月に完成し小安峡の新名所となった皆瀬ダムがある。ここは栗駒温泉郷の中で、今でもひなびた姿をとどめている泥湯温泉。そしてこのすぐそばには、こけしで有名な木地山がある。通称「まえだれこけし」とも言われているこの木地山こけしは、奥羽地方の元祖といわれ、素朴で美しく、全国の愛好者から広く親しまれている。

このように、恵まれた環境にありながら、開発の遅れていた栗駒山麓は、鳥海との新しいルートの計画や国民宿舎の建設が予定されるなど、総合的な観光開発が今具体化しようとしている。

～ご来場ありがとうございました。～

■ 秋田県公文書館 ■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31
TEL 018-866-8301
FAX 018-866-8303
E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】
平成26年度企画展「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」
10月31日（金）～11月30日（日） 当館2階特別展示室にて開催中！

県政映画上映会

～懐かしき昭和三十年代の我が秋田～

平成26年11月3日（月） 秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午前の部 11:00～正午 午後の部 14:00～15:00

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 前半 ◆

① 昭和33年1月「県政ニュースNo.9」

- ・就職への近みち～公共職業補導所
 - ・トピックス…エプロン合唱団（秋田市）
…輸出工芸品のホープ
- 県庁の建設計画進む ほか

② 昭和34年10月「県政ニュースNo.23」

- ・二代目千秋丸誕生～県水産指導船
- ・三笠宮お迎えして全国高校レスリング開く（旧五城目町）
- ・奥地に鉄道建設～生橋・鷹角線
- ・ミルク料理腕くらべ～全国大会予選
- ・県商工祭開く（鷹巣町）
- ・完工にあと一息～県庁舎



◆ 後半 ◆

③ 昭和34年11月「県政ニュースNo.24」

- ・文化の日にぎわう
- ・雄物川のさけ網（旧大曲市・旧神岡町）
- ・新しいみのり（旧山本村・旧琴浜村）
- ・第14回国体開く（東京）



④ 昭和36年7月「県政ニュースNo.34」

- ・県外で働く青少年
- ・森吉山麓のジャージー二世
- ・国体トピックス
- ・県民の窓…駒草荘（旧田沢湖町）

⑤ 昭和38年11月「県政ニュースNo.52」

～はじめに～

郷土秋田のニュース映画を5本上映!



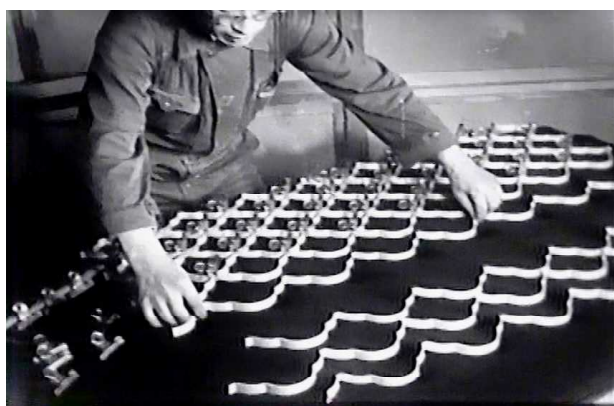
かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で本編映画の幕あいに上映され、その時々々の県政に関するニュースや各地域の話題を提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は、秋田の文化や国体、県庁舎建設などに関する話題をはじめとした5本の作品を上映します。

どれも当時をしのばせる貴重な映像ばかりです。ノスタルジーあふれる昭和30年代の秋田をぜひご覧ください。

～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■



① 昭和33年1月「県政ニュースNo.9」

【トピックス…輸出工芸品のホープ】 県では、工芸品の海外輸出を目指して、デザインの改善・量産に力を注いでいます。輸出のホープ、木製スクリーン。これは薄いブナ板でいろいろな組子の模様をかたどったついでです。居間や茶の間に調和した落ち着いたデザイン。洋間の中にスクリーンの日本的な感覚が明るく溶け込んでいます。秋田杉を材料にして作られる曲げわっぱは、武士の内職として旧藩時代から発達してきた素朴な民芸品です。製品は農家の台所用品や弁当箱などでしたが、最近では民芸的な味を生かした花(か)筒(づつ)、ちょうし入れ、サービス盆などモダンな香りも織り込んだ新製品が作られ、海外への進出が期待されています。漆(うるし)の持つ特色を強く生かした生(い)駒(こま)塗(ぬり)は、中央市場でも好評ですが、優れたデザインと鮮やかな色調はこのほど東京で開かれた日本優秀特産品展示会に集まった多くの外人バイヤーの注目を集めました。こうした工芸品が本県から輸出の花形として出ていく日も近いことでしょう。

① 昭和33年1月「県政ニュースNo.9」

① 昭和33年1月「県政ニュースNo.9」

【県庁の建設計画進む】 県庁は不幸にも昨年8月焼失し、その後焼け残った建物のほか、元帝石事務所をはじめ市内5か所に分散して事務を行ってききましたが、いよいよ今春には新庁舎の建設工事に着手することになりました。新しい県庁が建てられる敷地は八橋地区の1万坪で、この土地は秋田市から県に寄附されたものです。建設工費は8億7,000万円で、目下建設省に設計を依頼しておりますが、新庁舎は地下1階地上6階の永久建築が予定されております。県では八橋地区に新たに建設事務所を設け、ボーリングや測量を行うなど、再建への活動を開始しました。新しい庁舎は本年中に大体の骨組みを建て、昭和34年の秋までには完成する予定です。

「文化の日」とは？
1946年11月3日に平和と文化を尊重する「日本国憲法」が公布されたことを記念し、自由と平和を愛し、文化をすすめる日として定められました。

② 昭和34年10月「県政ニュースNo.23」

【二代目千秋丸誕生～県水産指導船】 県の新しい水産指導船千秋丸が完成し、その竣工式がこのほど船川港で行われました。この船は、これまで長い間活躍してきた古い千秋丸に代わって建造された二代目千秋丸で、建造費2,200万円、総トン数64トン、2,000馬力のディーゼルエンジンで、レーダーや魚群探知機を持ち、古い船と違って浅いところも航行できるという最新装備の船です。白と赤のあざやかな船体、若さにあふれるこの千秋丸は、本県の沖合沿岸漁業の指導にこれからの活躍が期待されています。



② 昭和34年10月「県政ニュースNo.23」

【完工にあとひと息～県庁舎】 昨年3月から始められた新しい県庁舎の建設工事は、11月の完成を前に順調に進められています。8月末現在、地上6階地下1階の本庁舎と、地上3階地下1階の議事堂は、それぞれコンクリート工事も全部終わりました。本庁舎の2階から議事堂へ通ずる廊下。4台のエレベーター工事もあとひと息。八分通り出来上がった議会事務局内。こうした新しい庁舎は12月に一般に公開して、県政展や各種の催しを開くことになっていますが、県庁舎の建設によって附近一帯に新しい官公庁の街が生まれようとしています。



③ 昭和34年11月「県政ニュースNo.24」

【文化の日にぎわう】 秋晴れの11月3日文化の日、県文化功労者を称える第4回目の表彰式が、午前10時から秋田市の県立児童会館ホールで行われました。今年表彰を受けた人は、県の文化発展と地方自治に大きな功績を残したラジオ東北社長武埴祐吉さん。宗教を通じて慈善事業と社会福祉事業に献身した秋田市の菊池祐寛さん。大正14年から一貫してツツガムシ病の研究と取り組んでこられた大曲市の医師寺邑政徳さん。水稻の温床育苗など農業の発展に貢献した大館市鎌田茂治さん。長い間生け花を通じて生活文化の向上につくされた県華道連合会長の杉村キツさん。地質学を通じて長い間郷土の学術文化につくした秋田大学名誉教授大橋良一さん。地方義太夫の保存と普及に努力し、このたび地元湯沢市と県両方の文化功労者に推された湯沢市の大坂甚一郎さん。以上7人の人たちで、和やかなうちに県民の祝福を受けたのでした。



一方、秋田市体育館では、新しく募集した県章と県民の歌の作詞当選者の授賞式が行われました。新しい県章が舞台いっぱい紹介され、引き続いて第1回秋田県芸能祭に移りました。こうして数々の演芸は短い秋の日の暮れるまで続けられ、多彩な文化の日の幕を閉じたのでした。

